



税理士・社会保険労務士・中小企業診断士

# みずの通信

水野会計事務所

500-8288 岐阜市中鶉 3-70-7

TEL058-273-2484 FAX058-273-2416

2014. 9

## 家訓の話

北海道函館市にいくと江戸末期から明治にかけて隆盛を極めた相馬哲平なる人物の話がでます。

彼は米穀商に勤めて得た給金と夜の行商で貯めたお金を戊辰戦争の勃発の際、お米の買取にすべてつぎ込み、戦争後高騰したお米をすべて売り切って財をなし、そのお金を不動産等の買い占めに使い、さらに大きく財をなした人だそうです。百十三銀行の頭取にもなり、貴族院議員にもなっています。篤志家としても有名だったようです。

そんな彼が後世のために、家訓も作っています。

家訓は、「投機に手を出すな」、「借金するな」、「政治に関わるな」、「質素儉約に勤めろ」、「家業を大切にせよ」、というものです。

彼が生前行ってきたことと家訓とを比べると、大きく食い違っています。

彼が最初に財を成したきっかけは、お米への投機とっていいでしょう。

銀行の頭取になりましたが、銀行業務は借金とは切っても切れないものでしょう。

貴族院の議員は政治家そのものです。

今も残っている当時の住居は、函館観光の目玉の一つになるような豪邸であり、質素なものではありません。

これでは、家訓は自らがしてきたことを全否定するようなものです。

そして「家業を大切にせよ」としています。

創業時と財を成した後とは、仕事の仕方が変わるの当然ですし、名士となればそれなりの品格や佇まいも求められるでしょう。取り巻き連中も増え、うまそうな話を子息たちにいっぱい持ってくることもあるでしょうから、このような家訓になることも理解できます。

ただ、子息たちに事業家として自分のやってみせてきたことを否定し、「するな。」「するな。」ばかり記載して、「家業を大切にせよ。」では、後継者は身動きが利かないように感じました。

「変化に対応せよ。」「家業にとられるな。」等々と書かれていればまだわかるのですが、「ひとつと家業を守っていけ。」と書いてあるようにしか読めません。

相馬家のその後はネットで検索してもよく分かりませんが、時代の変化には対応できなかったようです。

## 報道の話

なんとも滑稽な記者会見で話題となった野々村竜太郎元兵庫県会議員の政務調査費の大疑惑から、他の県会議員等の政務調査費の問題が報道で取りざたされていました。

しかし毎度のことながら、一つ大きな疑惑が生じると、大した話でもないことまで「問題だ」「問題だ」と報道されるようになります。

ここからは、まったくの私見です。

ある議員の政務調査費にやたらとタクシー代が多いことを問題視していました。

年間400回ほどですが、日に換算すると2回程度、往復ならば普通です。自家用車に乗



っても駐車場代がかかります。駐車場に駐車する時間のロスが生じます。お酒が入れば代行運転の必要が生じます。タクシーの中であれば仕事もできます。公共交通機関では待ち時間のロスが生じますし、重要書類を持っていたら物騒です。

こう考えると、政治家のなかにタクシーを仕事のために頻繁に使う主義の人がいてもよいのではないのでしょうか。

新年会がやたらと多い、との批判もありましたが、政治家が県民と交わる機会を疎んじたら終わりだと思います。それが仕事でしょう。政治家が毎日、机に座って、パソコンを操作ばかりしていたら、仕事をよくしていると言えるのでしょうか。

他にもいろいろありましたが、即、「とんでもないことだ。」と自分の価値観で決めつけた報道をするのではなく、もう少し多方面から検証した様子がうかがえる報道をしてほしいです。

以前、政治家の事務所費にコミックの購入費が計上されていたことが問題とされました。「マンガみたいなものを」との蔑視した言い方です。一方で、「マンガやアニメは日本の誇る文化、産業である。」と誉めそやします。

本音はどちらなのでしょう。

すると、すぐ、「マンガを読むことは自由だけれど、公費でマンガを買うことがいけない。」と言います。「我々の税金でマンガを買うことが許せないのです。」と決まり文句が出ます。

ならば、公費で新聞を買うこともダメでなければおかしいと思うのです。

「新聞はよくてマンガはだめ」というのは報道記者の価値観であって、マンガ雑誌の編集者がそのような考えを持っていたら、マンガ家から出入り禁止となってしまうでしょう。

実際、マンガにだって、社会的問題提起をしている話だってありますし、大変ためになるうんちく物もあります。心を打つ話だってあります。



## 富士総合火力演習の話

富士総合火力演習、今年は8月24日（日）、公募により競争倍率は24倍とのこと。この火力演習、実は8月18日から24日まで、毎日行われているようです。それらの観覧者は、各OB家族、縁故者等になっているようですが、今年度は、隊友会さんの方針で、広報活動の一環として、口コミによる一般の人の募集も行われました。

それに申し込みさせていただき、おかげさまで19日の火力演習を見学することができました。18日からバス1台で出発し、18日は自衛隊の駐屯地を見学し、90式戦車に試乗しました。

翌日の火力演習は公開演習ですから、隊員の訓練、士気の高揚が目的でしょうが、観る側は豪華なショーとなります。

バスの中や夕食会での隊友会さんとの話は、抑止力としての武力、集団的自衛権、技術、予算等々、政治に翻弄されながらも知恵を絞り、頑張る現場の思いが伝わりました。

公益社団法人になったことから、縁故者の会という存在だけでなく、広く一般に広報をし、賛助会員の拡大をとの目的で行われた活動だと思いますが、なかなか心配りの多いツアーであったと思います。来年度も形を変えて行われるそうです。

つくづく、ツアーに参加して、本当の戦争は厭だなあ、抑止力としての武力であり続けてほしいと改めて思いました。



月々に月見る月は多けれど 月見る月はこの月の月

(読み人知らず)